

rec'd PCT/PTO 31 AUG 2004
PCT/JP03/15534 #2
10/506295
04.12.03

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

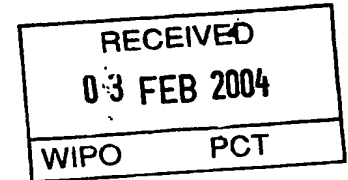
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 5 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 5 4 0 9 1
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 3 5 4 0 9 1]

出 願 人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

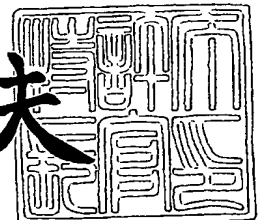


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 1 月 1 5 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 2260040014

【提出日】 平成14年12月 5日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H01M 10/44

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
 会社内

 【氏名】 飯田 琢磨

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
 会社内

 【氏名】 渋谷 直慶

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
 会社内

 【氏名】 齊藤 弘樹

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
 会社内

 【氏名】 竹島 宏樹

【特許出願人】

 【識別番号】 000005821

 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100097445

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 岩橋 文雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100103355

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 智康

【選任した代理人】

【識別番号】 100109667

【弁理士】

【氏名又は名称】 内藤 浩樹

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011305

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9809938

【書類名】 明細書

【発明の名称】 2次電池のリフレッシュ方法とその表示方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ニッケル酸化物を主体とする正極と、水素吸蔵合金からなる負極と、セパレータ、およびアルカリ電解液を備えたニッケル-水素蓄電池を定電流充放電方法、あるいは定電圧充電方法、さらにはこれらを併用した充電であって、前記電池が、放電終止電圧に至ってから、1日以上経過した後の回復電圧が1.15V以下の場合、リフレッシュ充放電が必要であると表示することを特徴とする電池のリフレッシュ表示方法。

【請求項2】 ニッケル酸化物を主体とする正極と、水素吸蔵合金からなる負極と、セパレータ、およびアルカリ電解液を備えたニッケル-水素蓄電池を定電流充放電方法、あるいは定電圧充電方法、さらにはこれらを併用した充電であって、前記電池が、放電終止電圧に至ってから、1日以上経過した後の回復電圧が1.15V以下の場合、自動でリフレッシュ充放電を行うことを特徴とする電池のリフレッシュ方法。

【請求項3】 リフレッシュ充放電が、5.0It以下で初期容量の90～120%まで充電し、さらに150～200%まで2.0It以下でタイマー充電することを特徴とする請求項2記載の電池のリフレッシュ方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、アルカリ蓄電池からなる電池パックを有効につかう電池制御方法であり、特にそれに用いられるニッケル-水素蓄電池の電池制御方法であり、蓄電池の電池容量を有効に活用させる方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

エレクトロニクスが目覚ましい発展により、電子機器の小型、軽量化が可能となり、コードレス化、ポータブル化が急速に進展した。これらの機器の進歩に伴い電子機器用電源も小型、軽量で高エネルギー密度の電池が要望されている。それ

らの用途としては、電動工具を中心とするパワー用途をはじめ、バックアップ用途など、ありとあらゆるものの電源として使われている。これらの電源としては、従来ニッケル-カドミウム蓄電池が幅広く使われてきた。高まる高容量化要望と世界的な環境問題への高まりにより、ニッケル-カドミウム蓄電池に代る商品として、ニッケル-水素蓄電池が開発され、市場に浸透してきた。従来、これらの二次電池を用いた電池パックでは、充放電を繰り返すうちに電池が不活性化することにより電池容量が減少し、十分な電池容量を得ることができなくなるという課題があった。また電池が長期放置されると電池の自己放電等により電池電圧が低下する。この時、正極では、電池内の酸化物が還元され、負極では逆に水素化物が酸化される。これらの要因から電池が不活性状態になる。これらを解消するには、リフレッシュ充放電が必要となってくる。リフレッシュ充放電をする方法としては、充電回数、または放電回数をカウントする事によってリフレッシュ放電を必要とする表示をしたり、電池温度が高くなると電池メモリー効果を発生しやすくなるため、温度によってカウント数を増やし、リフレッシュする充電回数を少なくする方法が提案されている（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

【特許文献1】

特開 2001-126776 号公報（第2頁）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながらこのような充電回数をカウントする方法では、電池の状態に関係なく、充・放電の回数によりリフレッシュ充放電するため、長期放置され、電池が不活性になった場合には、リフレッシュ充放電の表示がなされないという課題があった。例えば、充放電回数が50回でリフレッシュ充放電される充放電システムの場合に、25回充放電した後、放置され電池が不活性になった場合はリフレッシュ充放電されずに通常の充放電がされるため、電池を有効に活用できない。

【0005】

本発明は、長期放置され、電池が不活性になった場合にもリフレッシュ充放電

する事が可能となり、電池を有効に活用することを可能とするものである。

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明のリフレッシュ充放電を管理する方法としては、正極と水素吸蔵合金からなる負極と、セパレータおよびアルカリ電解液を備えたニッケル-水素蓄電池を定電流充放電方法あるいは定電圧充電方法さらにはこれらを併用した充電であって、前記電池が、放電終止電圧に至ったのち、1 日以上経過した後の回復電圧が1. 1 5 V 以下の場合、リフレッシュ充放電が必要であると表示するか、あるいは自動でリフレッシュ充放電する方法であることとした。

【0 0 0 7】

本発明のリフレッシュ充放電を管理する方法において、電池電圧が1. 1 5 V 以下で不活性状態の場合、極板の反応性が低下しているため、本来の充放電反応の他に副反応として、水の分解反応により、酸素や水素ガスが発生し、このガスにより電池の劣化が加速し、短寿命になっていた。このため、リフレッシュ充放電を実施することにより、極板の活性化が図れ、酸素、水素ガスの発生を抑制できるため電池を長寿命化することが可能となった。

【0 0 0 8】

また、この大電流で充放電されると副反応が促進され、ガス発生量が増え、電池の劣化が加速されるため、さらに短寿命となる。このため、好ましくは5. 0 I t 以下で初期容量の9 0 ~ 1 2 0 % まで充電し、さらに2. 0 I t 以下の低電流で1 5 0 ~ 2 0 0 % まで充電して放電する事により、ガス発生を抑制しながら、極板を活性化できるため、長寿命化が可能となる。

【0 0 0 9】

尚、I t とは、電池の定格容量を表す値で、一般に充放電電流はこの倍数で表す。例えば、電池容量が1 A h の場合、1 A が1. 0 I t となり、2 A が、2. 0 I t となる。

【0 0 1 0】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態について説明する。

【0011】

図1に本発明のリフレッシュ機能用電源回路のイメージ図を示す。図1において電池の電圧を読みとる電圧検知部1と電池12に接続されるシャント抵抗11により、電流を検知して電池が充放電されたかどうかの判定をする電圧検知部2と温度を検知する温度センサー3からなりこれらのセンサーをマイコン4に入力してこのマイコンからFET5, 6に信号を送り、充電電流を制御する。温度検知用サーミスタ3からの情報に従いマイコン4は電池温度やその温度の変化率などの情報に従い、温度異常などの異常を表示するための異常表示LED7に信号を出す。

【0012】

また電圧検知部で読み取った電池電圧と所定の電池電圧を比較し設定値より低い場合にはまたリフレッシュ充放電が必要であることを表示するためのリフレッシュ機能表示LED13に信号を出す。そしてこの表示に基づきリフレッシュ充電する。さらにリフレッシュ放電を行うリフレッシュ放電回路14を備える。

【0013】

また必要に応じ、残量表示LED9や劣化検知LED10に信号を送り、表示処理を行う。ここでFETはリレーを使うことも可能である。またリレーはFETを使用することも出来る。

【0014】

本発明のバックアップ電源の管理方法は、以下の構成よりなる不活性化した二次電池を、リフレッシュ機能を有する充放電制御回路を用いて管理するものである。例えばHHR350SCP（容量3.5Ah、電圧1.2V）の電池を10本直列にした場合、電池の仕様は容量3.5Ah、全電池定格電圧は12Vとなる。

【0015】

電圧検知部1は常に全電池を加算した電圧全体を監視している。この電圧が仮に1.15V/cell以下になると電圧検知部1からマイコン4に信号が送られ、マイコン4からリフレッシュ表示機能13に信号を送り表示させる。この表

示を見てリフレッシュスイッチが押されると、リフレッシュ充電の開始を F E T 5 に伝える。これにより F E T 6 はスイッチをオンとし充電を開始する。

【0016】

電池周辺部に設けられた温度検知用サーミスタ 3 は電池の温度を常に監視している。このサーミスタには通常、N T C が使用される。本発明においては、電池温度の温度変化率が、ある一定値を超えると電圧検知部 1 からマイコン 4 に信号が送られ、マイコンは充電停止を F E T 5 に伝える。これにより F E T (6) のスイッチは遮断され、充電が停止される。充電を停止する電池温度の温度変化率は $0.5 \sim 4.0^{\circ}\text{C}/\text{min}$ であることが好ましく、さらに好ましくは $1.0 \sim 3.0^{\circ}\text{C}/\text{min}$ である。 ΔT がこの値以上の場合、充電電量が初期容量 120 % を超え過充電するため、電池内のガス発生が大きくなり、電池が劣化し、寿命特性が低下する可能性がある。このため充電電流を 2.0It に変え、初期容量の 150 % までタイマー充電を行う。マイコン 4 は充電時間をカウントしており、30 分経過するとマイコン 4 より再度信号が F E T 5 に送られ、F E T 6 のスイッチは遮断され、充電が停止される。

【0017】

またマイコン 4 でリフレッシュ放電回路 14 を操作することによって自動でリフレッシュを行うことにより、使用者の作業軽減をはかることも可能である。

【0018】

【発明の効果】

本発明の電池制御を用いてリフレッシュを行うと、ニッケル水素蓄電池の電池の不活性化を解消し、電池を有効に活用できる。また入力される電源の種類は定電流充電でも定電圧充電でも可能である。そのため、さまざまな機器への適用が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のリフレッシュ機能用電源回路のイメージ図

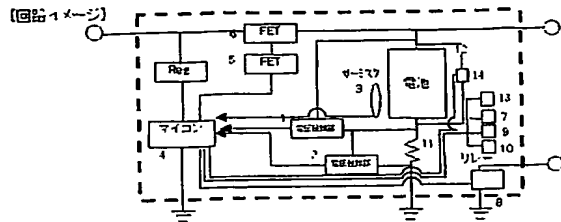
【符号の説明】

1 電池電圧検知部

- 2 電池電圧検知部
- 3 温度検知用サーミスタ
- 4 マイコン
- 5 充電電流遮断用 F E T
- 6 充電電流遮断用 F E T
- 7 異常表示 L E D
- 8 放電回路遮断用リレー
- 9 残量表示 L E D
- 1 0 劣化検知 L E D
- 1 1 ショント抵抗
- 1 2 電池
- 1 3 リフレッシュ表示機能
- 1 4 リフレッシュ放電回路

【書類名】 図面

【図 1】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ニッケル-水素蓄電池をはじめとする電池をリフレッシュし、電池の不活性化を抑制するための充放電制御システムを提供する。

【解決手段】 ニッケル酸化物を主体とする正極と、水素吸蔵合金からなる負極と、セパレータ、およびアルカリ電解液を備えたニッケル-水素蓄電池を定電流充放電方法、あるいは定電圧充電方法、更にはこれらを併用して充電する方法であって、前記電池が、放電終止電圧に至ってから、1日以上経過した後の回復電圧が1.15V以下の場合、リフレッシュ充放電が必要であると表示することを特徴とする電池のリフレッシュ方法。

【選択図】 図1

特願 2 0 0 2 - 3 5 4 0 9 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 8 2 1]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地

氏 名 松下電器産業株式会社